

## ◇ 巡検の記録 ◇

### 仙台巡検（10月3日～6日）

「せんだいー。せんだいー。」10月3日午後12時50分に仙台駅のホームに降りると、いくらか冷たい風がすがすがしい。駅前でタクシーに乗り、樺並木の広々とした道路を10分ばかり走って私達の宿舎である勾当台会館に着くといよいよ巡検の始まりである。テーマは都市機能、都市と農村、仙台の広域中心性についてであった。私達はまず県庁を訪れて宮城県の地勢、人口、産業、都市計画などの概略をうかがい、次に市役所で仙台の広域中心性についてのお話を聞いた。それによると、仙台には戦前から官公庁の出先機関が集中し始め、戦後になって急増し、それにつれて中央企業の出先機関が集中し、特に第3次産業の支店、営業所が目立っているということである。しかも、仙台の広域中心性はそれら中央の出先機関の東北地方に及ぼす影響力ゆえのものであるとのことである。仙台は中央集権制の産物なのであろうか。

夕食後の勉強会には、宮城教育大の田辺先生がわざわざおいで下さって、私達は仙台都市圏に関する興味深い話をスライドつきでうかがうことができた。田辺先生の御説明は主に仙台の移り変わりに関することであった。私達は、とても有意義で充実感のある時間を過ごすことができた。ここで改めて田辺先生に御礼を申し上げたい。

4日、マイクロバスで市内を見学し、さらに卸売団地、仙台港なども見学する。仙台は駅前などの主要道路は実に広く整然としていて、そのうえ街路樹、グリーンベルトなど緑も多い。東京と比べると全くうらやましい限りである。その後、私達は泉パークタウンへ向かい、事務所の方からお話をうかがう。最後に青葉城に寄り、歩いて市街地を見学しながら宿舎へ帰る。東一番町では、皆ヶキ屋巡検などを積極的に行ない、東京と仙台の比較ヶキ論も聞かれた。

5日、午前中は泉市役所で市の概略、大規模に造成されつつある住宅団地についての説明を受け、午後は5つのグループに分かれて付近の農村調査を行なった。からりと晴れあがった雲一つない青空の下、私達は3人1組になって不安と期待に胸をうちふるわせ、それぞれの集落に入って行った。建物の配置、土地利用などの現況を地図に書き込み、さらに一軒一軒の農家でお話を聞いて歩く。こちらの抽象的な質問の意味がわかってもらえなかったり御老人の方言が聞きとれなかったりの珍道中ではあったが、実際に自分の目で見、耳で聞いて得た知識には実感がある。ススキの穂が夕日を受けて金色に輝くころ、農村の一日は終わる。

6日、巡検最後の日である。電車は家々の軒先をかすめながら塩釜へと向かう。市役所で塩釜の歴史、水産業、過密の状況をうかがい、塩釜港、水産加工団地、加工工場内を見学。昼頃解散した後、皆で塩釜神社に参拝。祀られているのは安産の神様とか。

今回は定着巡検だったので、以上のような3泊4日の巡検で、フィールドに愛着がもてた。また、のどかな農村の中で、仙台の雑踏の中で、「神は農村をつくり、人間は都市をつくった。」というこ

とを肌で感じた。

最後に、私達を暖かく御指導くださった先生に厚く御礼を申し上げたい。

(井内先生指導 2年 桜井敬子・桜井昌子)

## 諏訪巡検 (9月4日～9月7日)

9月4日午後零時30分。私達は、上諏訪駅に集合した。これからが諏訪巡検のはじまりだ。しかし、そうした私達の気持ちとらはらにくずついた空模様ではやくもポツリポツリと雨にたたられてしまった。私達は、汚染されて緑色に変色してはいるが、海拔759m水深7m周囲18kmの諏訪湖とそれを取り囲むようにそびえる信州の山々の美しい景色に目をうばわれながらひとまず宿に荷をおろした。午後2時、私達は、諏訪湖やそこにひらける扇状地や集落を眼下に見おろす高原バスで左右にゆられながら霧ヶ峰牧場に到着。飼料用に作付されているとうもろこし畑の中、点々とサイロが見える。茅野牧場を見学したが、ここは満州ひきあげ後、昭和24年から開墾し、総面積24ha、乳牛90頭を飼育していた。毎年血統のいい経産牛をアメリカやカナダから輸入し品種を高めていた。私達は、乳牛のあまりの巨大さに驚嘆するばかりであった。牧場見学後、天候が急変し、夏だということに、直径8mm程度のひょうが空から降ってきて、またまた、驚ろくばかりであった。

9月5日、快晴。上諏訪市役所と下諏訪町役場で説明を聴取した後、岡谷市役所蚕糸博物館を見学。その内容は 日本資本主義勃興は生糸にあり、横浜から外貨を得た。ところが、太平洋戦争中、中央の軍需産業が疎開し、山中のため戦火からまぬがれ、又、施設もあり、労働力もあるという条件から、敗戦後もそのままのこり、カメラ、レンズ、顕微鏡といった光学関係と時計の精密機械がこの地域に発達してき、桑園は、そうした工場の敷地へと変わっていった。現在、メリヤス工業は下諏訪が中心に、精密機械工業は岡谷市が中心に行なわれている。

9月6日、快晴。ヤシカ工場の見学、近代的な工場の中、ベルトコンベアーで運ばれるカメラの一部品のとりつけが、数百人もの作業員によって行なわれている。徹底した社員教育(人を育てる企業をモットーに)がなされはしていたが、合理化のため、従業員は1500人から700人に削減されている。そして、親会社一子会社という縦の系列を強く感じる岡谷市であった。

9月5日午後から7日にわたり、私達は、諏訪巡検の目的である地誌作成のため、9つのグループに分かれ、本格的に自分たちの調査を開始した。新しい知識を求めて、散らばっていった地理科メンバーであるが、はたして、どんな地誌が集大成できるか、楽しみである。

(浅井・内藤先生指導 3年 桑田裕代)